

ブルンジ月報（2022年11月）

1. 内政・外政

- 4日、2022年1月から10月末までに、ルワンダ、ウガンダ、タンザニア、モザンビーク、ケニアの難民キャンプから少なくとも19,198人のブルンジ難民が自主的に帰還したと内務省が発表。(The Press Stories)
- 5日、EAC首脳会議の議長であるンダイシミア大統領はブジュンブラにてコンゴ民主共和国（DRC）東部地域の平和プロセスに関するEAC促進者、ケニアのケニヤッタ前大統領と現在のコンゴ民主共和国の安全状況について協議した。(Rwanda News Agency)
- 27日、コンゴ民主共和国軍とブルンジ軍によるコンゴ民東部での共同攻撃で、ブルンジの反政府勢力40人が殺害されたと、コンゴ軍報道官が発表。(AFP)
- 28日、国際刑事裁判所（ICC）は、2015年の政治危機の際にブルンジで行われたとされる犯罪に対する捜査は順調に進んでおり、終了間近であると発表した。次は、犯人とされる人物に国際逮捕状を発行することである。(SOS Media Burundi)

2. 開発協力

- 18日、過去5年間に帰還した20万人以上のブルンジ人元難民と、国内で受け入れている約9万人の難民を支援するためには、資金の増加が必要である。ブルンジに滞在する難民の大半は隣国コンゴ民主共和国からである。(UNHCR)

3. 経済

- 4日、経済都市ブジュンブラでは、2週間ほど前から燃料不足になっており、ガソリンスタンドでは行列ができています。当局は、都市交通を混乱させているこの燃料不足の理由については言及していない。(SOS Media Burundi)
- 13日、政治都市ギテガでは、市場に出回っている商品のほとんどが2倍近く値上がり。行政官は業者が価格を操作していると非難し、業者は現地通貨の切り下げを問題としている。(SOS Media Burundi)

以上